令和７年度　中学生の「税についての作文」
緑納税貯蓄組合連合会　優秀賞

家族を支える税金の力

桐蔭学園中等教育学校　第三学年　矢萩　こころ

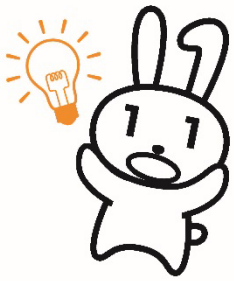
祖母の家には、少し離れた場所に小さな畑があります。そこではおばあちゃんが、家族のために野菜を育てています。毎日せっせと草を抜いたり水をあげたり、手間はかかるけど、おばあちゃんの笑顔はいつも楽しそうです。

そんなおばあちゃんにも、つらい時期がありました。私のひいおじいちゃんが突然転んで骨折し、歩けなくなってしまったのです。介護が必要になり、おばあちゃんがずっとひとりで世話をしていました。朝から晩までつきっきりで、おばあちゃんはどんどん疲れていきました。私は何もできなくて、とてももどかしかったです。

ひいおばあちゃんも以前、転んでから状態が悪化し、そのまま亡くなってしまいました。そんな経験もあり、おばあちゃんは「もしひいおじいちゃんもこのままだったら…」と心配でたまりませんでした。だから、入院させることが決まった時、安心した反面、「費用はどうしよう」「私たちで払えるのか」と、不安も大きかったようです。

でも、実際には医療費の多くが保険でまかなわれ、負担はそれほど大きくありませんでした。病院では看護師さんが交代でお世話してくれて、おばあちゃんもようやく休むことができました。その時初めて、私は「税金って、こういう形で使われているんだ」と気づきました。

普段、税金という言葉はニュースや教科書で目にしても、実感することはあまりありませんでした。でも、家族の命や生活を守ってくれる仕組みの中に税金があると思うと、とても大切なものに感じます。私の家族を支えてくれたように、きっと今も、どこかで誰かを支えているのだと思います。

私たちが安心して生きていけるのは、社会を支える税金のおかげです。今、私は学生で、税金を納める立場ではないです。でも、誰かの税金に支えられて、生きているということを忘れないでいたいです。そして、将来、自分が働いて納めるその一部が、誰かの命や生活を守ることにつながるのなら、それはとても誇らしいことだと思います。

おばあちゃんは土と向き合いながら、何も言わずに家族を支えてくれていました。税金も、そういうものなのかもしれないのです。静かに、目立たず、でも確かに誰かを支えています。その力がある限り、私たちは安心して前に進んでいけます。